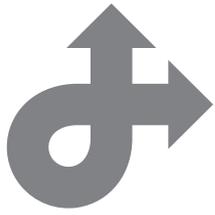


新制作

SHINSEISAKU



Vol.63 / 2012  
新制作協会 広報誌



第76回展

## 76回展へのアプローチ

新制作展も国立美術館にすっかり定着した感がある。さて、公募団体展の是非について美術家内で話題にのぼって既に久しい。団体展を必要としない美術家は個展、グループ展等で作品を発表していると推測されるが果たして会場に足を運び観てくれる人がどれ程いるのだろうか。美術は観てくれる人がいてはじめて成立し、意義あるものである。

はじめて新制作展を観たのは昭和30年代であった。一地方から上京した大学生にとってそれまで展覧会とは無縁であった故でもあるが強烈な印象を受けた記憶がある。戦後欧米での美術運動の大きな高まりが幾筋もの潮流となって日本に紹介され、美術家達に影響を与えたが、やがて真摯に自らに問い、探求する事によってその影響下から脱していった過渡期であったと思われる。新制作協会には美術界をリードする実力者、知名度の高い錚々

たる会員も多く展覧会場には熱気が感じられた。

今年で76回展を迎えるに至ったが作品は常に純粋な創造力に導かれ、内奥からの欲求が制作への原動力となって創り出される。洗練された表現には斬新さが試みられ、新鮮な雰囲気満たされている。そこに新制作協会の魅力があり若い作家を惹きつけている所以であり、その伝統は今に引き継がれている。

一年に一度の展覧会であってみれば、一年間制作に励んだ作品を発表できる絶好の機会である。会場では他の作家達の作品の中で自分の作品を冷静に見極められるか。それには自分が一人の鑑賞者となり、いわば俄仕立ての評論家となって自らの作品を評価し、更なる向上につながるのも切磋琢磨できる環境を与えられているからに他ならない。そして、その事こそ団体展の最大の利点である。



委員長  
ほそ や やす じ  
細 谷 泰 茲

新制作協会は多くの作家を育ててきた。日本を代表し世界的にも高い評価を得ている作家も輩出している事は新制作協会の面目躍如といったところである。

斯く言う私も新制作に育てられた一人である。

### 第76回 新制作展

9.19 (水) - 10.1 (月)

10:00-18:00 (入場17:30まで)

[開館時間等は変更の場合あり。開館状況の確認は、  
国立新美術館 HP・ハローダイヤル (03-5777-8600) で]

## 国立新美術館

入場料 一般：800円 (学生無料)  
金曜日夜間開館 20:00終了(入場19:30まで)  
最終日 10/1 (月) 14:00終了(入場13:00まで)  
休館日 9/25 (火)

### 2012年度協会新代表委員

#### [代表委員]

委員長 細谷 泰茲 (彫刻部)

副委員長 鶴見 雅夫 (絵画部)

// 谷 浩二 (SD部)

委員 ● 絵画部

小島 隆三、竹内 一

平田 智香、武藤 岩雄

● 彫刻部

大野 春夫、本田 悦久

大田 雅代、渡辺 尋志

● SD部

山口和加子、佐伯 和子

白川 隆一



代表委員

#### [三部合同委員会]

- 会計委員会
- 函録委員会 (図録 / 広報)
- IT委員会
- 会計監査
- 広報委員会 (広報・PR / 会報 / HP)
- 美術館担当
- 受賞作家展委員
- 慶弔委員
- 美術団体懇親会

### Information

#### 巡回展開催日程

##### ◆ 京都展

京都市美術館

10/16 (木) - 10/28 (日)

##### ◆ 名古屋展

愛知県芸術文化センター 8F ギャラリー

11/13 (木) - 11/18 (日)

##### ◆ 広島展

広島県立美術館・県民ギャラリー

11/27 (木) - 12/3 (月)

### 新制作展に初めて応募される方、

### すでに作品応募の準備をされておられる方へ...

「作品公募制ですので、質の高い優秀な応募作品を期待し、貴作品による発言の場を設けています。

公募情報は、美術関係誌広告、協会発行の公募ポスター・リーフレット・応募規定、公式ホームページをご覧ください。

#### 応募申し込みと問い合わせは

● 電話 / 03-5603-8350 (毎週月、水、金曜 10:00-17:00)

● Fax / 03-5603-8360

● E-mail / webmaster@shinseisaku.jp

● 公式HP / <http://www.shinseisaku.jp/>

新制作協会 〒110-0013 東京都台東区入谷2-4-2 増田ビル202

※新作家賞受賞者には、賞牌として彫刻部会員麦倉忠彦氏の作品が授与されます。



## 展覧会情報

### 76 回展企画

「芸術と社会」シンポジウムと展示  
社会における芸術の有り様を考え、  
領域を超えた価値に出会う。

●シンポジウム 3F講堂／展示室1階  
9/23(日) 13:00～15:00



### 絵画部

絵画部 竹内 一

昨年は75回記念として様々な行事を行いました。今年は新制作の原点に立ち返り、じっくりと観ていただける、充実した作品と展示を目指した展覧会を考えています。

昨年度は75回記念の一環として「昭和モダン藤島武二と新制作初期会員たち」展が開かれました。神戸市立小磯記念美術館と川越市美術館においての創立会員の力強い作品展示やギャラリートーク・シンポジウム等の諸行事を通じて、創立前後の諸先輩の芸術に向ける強い意志を垣間みる事が出来ました。そしてそれは、新制作協会規約にある「我々は常に新しき時代の芸術家の結合を与望し、年一回以上の公募美術展覧会を最も厳格なる芸術的態度に於いて開催し、以て我々の芸術家有働の確立を期す」という強い言葉に表されていると思います。

記念展を通じてその事を再認識出来た事に感謝し、継承すべき我々会員と全出品者として協力し、前進と向上を具現化すべくより良い展覧会の運営に挑戦して参ります。「一般出品部門」「小作品部門」「データ審査部門」の三部門を通じて、皆様方の個性溢れる力強い作品をお待ちしております。

#### ●オープントーク／絵画展示室

9/19(水) 14:30 - 16:30

日本全国から会員や出品者がもっとも多く集まる日にオープントークを行います。会員が会場でお待ちしますので、普段あまり話が聞けない会員を積極的に捕まえて芸術論議に花を咲かせて下さい。

#### ●ギャラリートーク／絵画展示室

9/23(日) 15:00 - 17:00

会員の作品と出品者の方々の展示作品をもとに、トークを行いましょ。会員が一方向的に話をさせて頂くというよりも、出品の方々と質疑応答を行いながら進めたいと考えています。

#### ●グッズ販売／2F休憩室

今年もカンパッチ・ポストカードを準備してお待ち致します。今年のグッズも

コレクションの一つに加えて頂きますようお願いいたします。

#### ●チャリティー販売／2F休憩室

昨年にご協力ありがとうございました。今年も「東日本大震災チャリティー展」を継続し、昨年度と同様に震災遺児英を目的としている「あしなが育英会」に寄付を予定しています。積極的なご参加をお願いします。

### 彫刻部

彫刻部 大野春夫

昨年は大きな震災もあり、第75回記念展で彫刻として何か社会貢献できないか、ということで、チャリティーとして彫刻部有志によるデッサン及び立体(小作品)の販売を行いました。これが好評で御蔭様で完売し、今年の76回展でも引き続きデッサンと立体(小作品)を会期中にチャリティーとして販売することになりました。昨年始めたばかりで販売方法や展示の方法等反省点も多々あり、今年は昨年の経験を活かしより良い方向で進めたいと思います。

また昨年75回展から始めたオープントークは、76回展も引き続き初日の受賞式と懇親会との間の時間を使い、一般出品者と会員との交流の場をもうけます。今年はその後、彫刻部だけの懇親会ですので振るって参加頂き、76回展の幕開けを新制作展彫刻部出品者としてお互いに親近感をもって盛り上げていきたいと願っております。

#### ●オープントーク／彫刻展示室

9/19(水) 14:30 - 16:30

#### ●チャリティーグッズ販売／彫刻展示室入口会期中

### SD部

スペースデザイン部

山口和加子

昨年度は、75回記念展で合同展示など色々な企画がありました。

本年度は、また新たな気持ちで作品の充実を目指し、多くのジャンルの作品で会場を組み立てていきたいと思っております。

ます。

スペースデザイン部は、展覧会場に床置き、壁にかけた作品、宙吊りや、暗い部屋での展示、野外展示の作品など色々なジャンルの作品を発表しています。また4年前から「ミニアチュール部門」も設けています。空間におけるあらゆるジャンルの作品のさまざまな表現を、ご覧いただきたいと思っております。

昨年好評だった研修室でのレクチャーも、照明デザイナーの谷浩二氏によって行われます。また、展覧会場では、フリートークの日を設けて、作品についての御質問および御意見を御自由に話し合ってください。

さらに、ご好評を頂いております会員によるチャリティグッズのスペースキューブと、会員と受賞作品の写真はがきを、販売いたします。

#### ●レクチャー／3F研修室

9/22(土) 14:00 - 15:00

講師 谷浩二

(新制作協会会員・照明デザイナー)

題名：一光のタネアカシー

光の持つ表現力の追求をテーマに作品制作を続けている講師が、各種光源の特性や素材との関係を紹介し、いくつかの作品についてそれぞれの視覚効果をもたらす仕組みを実験しながらわかりやすく説明します。

#### ●フリートーク／SD展示室

9/22(土) 15:30 - 16:30

展覧会場に於いて会員・出品者・来訪者が、自由に声をかけ、作品について意見を聞いたり話し合ったりする時間です。



# 受賞作家展

絵画

銀座井上画廊  
1/23月-1/28土

- 小野 仁良
- 近藤オリガ
- 近藤 弘子
- 桜岡みゆき
- 田代 青山
- 田中 直子
- 馬淵 哲
- 中崎真佐子 (不出品)



田中直子  
アコウ -Rising on-



近藤弘子  
LIFT IT UP - I -



田代青山  
空風

SD

建築会館ギャラリー  
1/23月-1/28土

- 伊藤 順
- 大石 文
- 小泉 伸子
- 高松 恵子



伊藤 順  
ナギ

大石 文  
時を刻む-水-



彫刻

ギャラリーせいほう  
2/13月-2/23木

- 遠藤 丈太
- 岡 孝博
- 小川原隆太
- ゼロ・ヒガシダ
- 人見 崇子
- 松本 弘司



高松恵子  
wind 1



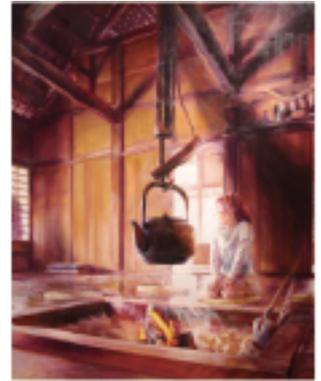
小泉伸子  
躍る



馬淵 哲  
Build



近藤オリガ  
ひまわり



小野仁良  
オトノキオク・IV



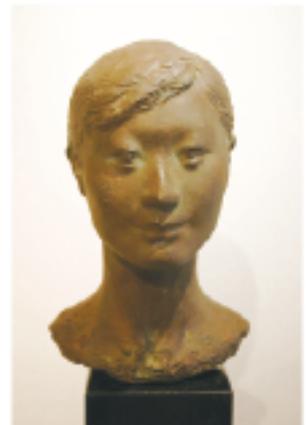
桜岡みゆき  
有るを疑う

人見崇子  
星のたね



岡 孝博  
Observation-flow2

遠藤丈太  
西から



小川原隆太  
lasting night のための習作



松本弘司  
風の大地



ゼロ・ヒガシダ  
Mr.Y

# 新制作生みの親・育ての親 < 7 >

絵画部会員 荒井茂雄

皆さん、こんにちは。我家の池のメダカ君達は四月に入っても冬眠から覚めず、眠りこけています。今年の春は、お覚めが悪く体調不良のようですが、皆さんはお元気でですね。

今回は、新制作彫刻部創立会員の舟越保武氏と同じく柳原義達氏の想いを記載致します。新制作第六回展の新制作派作品集に、舟越氏が「職人氣質」と題して活発なりズムの文体で淡々と語っています。

## 「職人氣質」 舟越 保武

朝五時、藝術家達がまだ昏睡してゐる頃、石屋の親方は庭へ出て空模様を見る。冷い水で顔を洗って仕事場の鞆の前に坐る。一日の仕事がこの時から始まる。焚附が行儀よく重ねられて火が入る。鞆が呼吸し出して見る間にコークスが赤々と燃え熾る。親方は木切れにその火を移し、恭々しく苜を一服する。内儀さんは朝飯の支度、雞は羽搏きをして高らかに関を作る。

眞赤に焼かれた鑿は、今日一日の仕事仕遂ぐべく逞ましく鍛えられて行く。「陽の上らん中に焼いたんでなけりゃ使へやしねえ」と親方はいふ。

朝飯を済まして、親方が仕事にかゝるときにはまだ、先刻の鑿は火のぬくもりを残してゐる。

鑿の音は朝の空気に冴えて沁み渡る。その音には永い傳統と親方の熟練がある。一打ち一打ち些かの無駄もなく、花崗岩の斷片は火花を見せて飛び散る。全身の力はこの鑿先に、全生命はこの鑿先に、しかも作るは墓石である。

「今頃の若い者の手を見ろ。女みたいな手をしてやがる」といって親方は自分の手を差し出して見せる。何のことはない石のやうなものだ。そして槌を持つので指が全部一方へ曲がってゐる。

親方は氣難かし屋である。だが怒ったときも仕事に精出し、嬉しいときにも仕事に精出す。親方は悲しむことはない。怒るだけである。弟子がちょっとでもへまをやらうものら、「何年石屋の飯を食ってるんだっ」と怒鳴りつける。「若い者は饒舌ことは達者だが、仕事と來たらからきしだらしがねえ」といふ。

親方は雨の日も風の日も十年一日の如く撓まずこつこつやってゐる。

早朝道具に焼きを入れて、朝食を済ますとすぐ仕事にかゝり、内儀さんが晝食を報らすまで鑿を離さない。晝食後三十分晝寝をして又仕事にかゝる。夕食までは人が訪ねて來ても仕事の手をやすめない。晩酌のいゝ氣持で風呂を浴びるとすぐ寝てしまふ。

親方の仕事にはまるで感激がないやうに見える。しかし親方は藝術家に劣らない高い感激を持ってゐる。ただそれは最も地味に抑へられて断えず親方の分厚な胸一ぱいにたゝみ込まれてゐるのだ。

「私らはそっぽを向いても鑿先に狂ひはねえ」といふ。「何でもさうならなきや嘘だと思ふんだが、絵描きさんや彫刻屋さんとはそんなにぶらぶらしてみても腕が上がるのかねえ」と不思議な顔をする。

と締括っています。

(生きるとは全能力を出し切り、与へ切つて生き切ることだと石屋の親方のつぶやきが聞こえてくる様です)

第十一回の新制作派の図録に柳原氏が無題と題して、目が見えないということ、目が見えるということは何かを問いかけています。

## 『無題』 柳原義達

色が見えない世界、形が見えない世界。目しいはこの世界の人なのだ。

この人達が觸れる美しいリンゴ、可愛い猫、そして人の手。足。胸。顔。髪。ふれることによって知る生命の世界。

ふれることによって知る世界に、僕よりも美しさを知って居るだらう。愛情を持って居るだらう。

僕は目があるばかりにこの世界の美しさを知らないのだ、形を見てみながら色彩を知ってみながら、その中にある命を知らないのだ。「存」と云ふことの中に目しいの觸覺感の世界を知らないのだ。それは比例の美しさ、建築的な美しさの前に誰も語らうとするのでもない。その物の世界。

形はこの根源の世界より生れて居るのだ。

僕は彫刻家と云ふが、然し幾何的立體

感しかつかめないなら彫刻家では無いのだ。觸覺感の交響樂的結晶體をつくらなければ、本當の彫刻家とは云へない。

フィデアス。ミケランジェロ、ロダン、ブルーデル、マイヨール、デスビオ、等本物を作った人達の共通の出発點はこの目しいの世界を知って居たのだろう。とむすんでいます。

(前の職人氣質で石屋の親方が文中でそっぽを向いても鑿先に狂いはねえと語り、後の無題でも僕が目のあるばかりにこの美しい世界を知らないのだと語っています。前文と後文には共通の『本能の叫び』があります。

物は目で見て手で造る。それでいいのか、本能で物を見ること、本能で物を創ること等、問いかけています。

悲しいかな、現代人は便利万能の世で、本來持っていた本能が退化して無きに等しい。

本能の世界に棲息する爬虫類とまではいかなくとも、せめて新現代人らしい本能は開発したいものです)

では今回はこれにてお別れいたします。次回の広報で又お会いいたします。



※新制作会報が広報になりました。これを機に広報に登場する人物の姓名の下を「氏」で統一しました。

特別展  
昭和モダン  
藤島武二  
新制作初期会員たち

SHOWA MODERN · TAKEJI FUJISHIMA & SHINSEISAKU ART SOCIETY'S EARLY MEMBERS

2012年1月28日-3月20日  
川越市立美術館

昭和モダン藤島武二と  
新制作初期会員たち展に寄せて

絵画部会員 鶴見 雅夫

2012年1月28日から3月20日まで、『昭和モダン藤島武二と新制作初期会員たち』展を、神戸市立小磯記念美術館、川越市立美術館、朝日新聞社、主催の企画にて華々しく川越市立美術館にてオープンいたしました。

昭和洋画壇動乱のなか九人のメンバーによって記念すべき新制作派展が上野公園内にて開催されました。創立初期のメ

ンバー達は我々が経験したことのない社会状況のなか個々のメンバーの生活、創作にまで不安定な影響を及ぼされました。その後さらに結束を固め1951年新制作協会とあらため現在に至るまで精力的に活動が続けている。

此の度、川越市立美術館にて創立会員の皆様の作品の大作を拝見し、湧き出る豊かな感性が頭の中から吹き出る様な思いを感じた。川越市立美術館には一般の方々にも大勢来館していただき感謝の気持ちでいっぱいです。九名の会員全て三十才前後の若き作家集団の「熱い思い」に刺激を受け、平成の時代に強い意

志を持って精力的に創作し、創立会員の理念「向上と前進」を堅持し、新たな時代に挑戦する必要があると思った。



◆開会式

1月28日  
2階アートホール前  
参加者は関係者86名



◆ギャラリートーク

「新制作初期会員作品を語る①」  
2月11日  
B1階企画展示室  
講師：渡辺恂三氏（新制作協会前委員長）



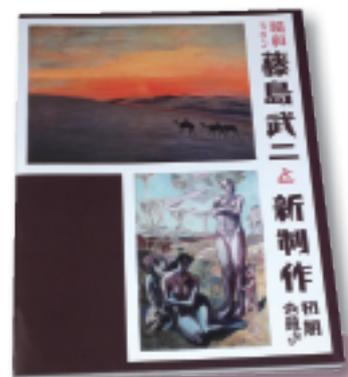
◆講習会

「新制作派協会結成とその時代」  
2月26日  
2階アートホール  
講師：廣田生馬氏  
(神戸市立小磯記念美術館学芸員)



◆ギャラリートーク

「新制作初期会員作品を語る②」  
3月4日  
B1階企画展示室  
講師：田澤茂氏（新制作協会会員）



◎観覧者数  
7,555人（開館45日）  
平均約168人/日  
一般 6,813人  
大高生 123人  
小中生 619人

公募団体ベストセレクション  
Best Selection  
2012

5月4日(金・祝)～5月27日(日)  
会場：東京都美術館

この度は、新制作協会より推薦頂き出品できました事を、大変ありがたく思っています。

高名な先生、先輩方にまじって都美術館の一隅を占有する事の有難さ、いいえ、申し訳なさ不思議さすら覚えました。

現代美術の黎明は、上野から始まり今に続く事を想い、新制作の成り立ちや趣旨を再確認して、心の引き締まる思いがしました。

左も右もほとんど弁えずに出品を始め、夢中で制作をして参りましたが、年を追う毎に、先生、先輩方のおかげで少しずつ前が開けているように思います。

公募団体は、時代に即さないという声も聞かれますが、流行を求めず本質を捉え、新しい価値の創造を生み出す場所だと信じ、今後とも挑戦し続けて行きたいと思っています。

彫刻部 大野 匠



#### 出品会員

- 佐野 めい 《投影の都市》
- 渡辺 恂三 《ロトの場合》
- 矢澤健太郎 《悲しい女神》
- 上岡 真志 《aqua (C.T)》
- 小島 隆三 《破壊と創造 “悩める賢者たち”》
- 藤田 邦統 《「量子」- 質について -》
- 加藤 昭男 《Mother and Child》
- 瀧 徹 《Dimension》
- 大野 匠 《時雨》
- 佐善 圭 《蕾の調べ》
- 佐伯 和子 《Red & Blue》
- 谷 浩二 《breath》

#### 編集後記

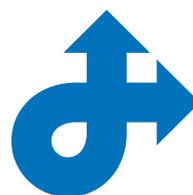
広報誌の顔となるべく表紙の作品提供を突然にも関わらず、心よく引き受けて頂いた佐野先生には、お礼申しあげます。向上と前進、が感じられる様、広報編集委員としても工夫してまいりますし、外部関係団体とも交流を深め共に発信できればと、考えています。今回ご協力いただいた方々、ありがとうございました。

(中野)

#### 訂正とお詫び

会報Vol.62の誌面に、間違いがございましたことを関係者並び読書の皆様にお詫びいたします。なお、正誤の詳細は当協会ホームページをご覧ください。

表紙絵／佐野 めい 表紙絵撮影／末正 真礼生



## 新制作協会

〒110-0013  
東京都台東区入谷2-4-2 増田ビル202  
Tel.03-5603-8350 Fax.03-5603-8360  
URL <http://www.shinseisaku.jp/>  
E-mail [webmaster@shinseisaku.jp](mailto:webmaster@shinseisaku.jp)

発行／新制作協会  
企画・編集／広報委員会広報誌編集委員  
辻井久子、岩間弘、中野 威  
監修／細谷 泰茲  
製作・印刷／株式会社横浜プリント  
発行日／2012年6月15日

広報委員会では、新制作展に関わるニュース、伝言、ご批評、ご意見をお待ちしております。お気軽にお寄せください。次号をご希望の方は協会事務局迄ご連絡下さい。